

地域おこし協力隊に  
初めまして!  
着任しました

アクティビティガイドと人材育成  
仙北市地域おこし協力隊  
鐘偉倫さん



自然体験を求めて仙北市を訪れる観光客の様々なニーズに応えようと、アクティビティガイドや次世代のガイド育成を担う仙北市地域おこし協力隊に台湾人の鐘偉倫さんが8月1日に着任しました。

台湾の台南市出身の鐘さんは、大学時代にアルバイトでマレーシア人やシンガポール人、中国人向けに台湾でのツアーガイドを経験。日本の自然や食文化などが好きだったこともあり、2015年に来日し、日本語学校や旅行専門学校で学び、国内旅行業務取扱管理者の資格を取得しました。その後、福岡県の旅行代理店や東京都の旅行会社に勤務、添乗業務や旅行企画などに携わったそうです。

仙北市には着任前に訪れたことがなかったそうですが、旅行専門学校の際に見た田沢湖の四季の写真が印象に残っていて今回の応募に至ったこと。実際に仙北市を訪れて感じた印象を聞くと「田沢湖は写真のとおりとても綺麗だった。角館も桜の時期ではないが咲いている様子がイ

メージできた」と話しました。鐘さんは今後、田沢湖キャンプ場やたざわ湖スキー場などでアクティビティガイドやガイド人材の育成、SNSを活用した情報発信などに取り組み、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いた後は、訪日外国人への対応と海外への情報発信を行う予定です。

意気込みを聞くと「台湾では東北の情報は少なく、まだまだ認知されていない。仙北市の四季などを動画や写真を使って海外に発信していきたい」と語ってくれました。



### 規模縮小も勇壮に 角館の伝統芸能 ささら舞

8月15日、雲巖寺で角館の伝統芸能「ささら舞」が行われました。例年、角館の送り盆行事の一つとして祖霊と神仏供養、五穀豊穡を祈り昼と夜の部に分かれて行われていた角館のささら舞。今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため行事は縮小となり、白岩若者会による白岩ささらが雲巖寺のみで披露されました。



雲巖寺の境内で披露されたささら舞。

毎年お盆の時期に白岩地区の家々を回る白岩ささらは、新型コロナウイルス感染症の影響で、今年の披露は白岩神明社と雲巖寺でのあわせて4回のみ。同会の13人を束ねる草薙明会長は「例年の10分の1の回数。たくさんの方に披露できないのは残念だが、今の状況を考えると仕方がない」と話しました。また「例年であれば約1か月前からOBの皆さんの指導をいただきながら毎日のように練習を重ね本番を迎えるが、今年は、若者会のメンバーだけで必要最小限の練習しかしていない。そのような状況の中でも、当たり前だと思っていたOBの皆さんの指導のありがたみを改めて感じる事ができてよかった」と話しました。



舞の終盤には、ザッザカと呼ばれる道化役がリズムカ  
ルな踊りを見せました。

### 「いつか」に備え、地域で守る命

## 松木内地区で避難所開設訓練を実施

8月4日、松木内小学校体育館で大規模な災害を想定した避難所開設訓練が行われ、同校の児童や松木内中学校の生徒、地元住民や関係者など約150人が参加しました。

この訓練は、地元の住民組織「ひのき清流会」の発案・企画によるもので、同会の浅利司副会長は「最近起きて大雨の影響で避難する機会が起こると予想されることから提案に至った」と話しました。

訓練では、中学生たちが班ごとに分かれて段ボールのパーティションを組み立て、密集防止に配慮しながら避難スペースを設営しました。さらに、新型コロナウイルス感染症防止に配慮し、担当ごとに避難者の検温、消毒をしました。

その後、避難者は健康な人・発熱者・負傷者に分かれ、中学生の案内・指示で避難スペースに入りました。消防署員から負傷者の応急処置や新聞紙を使ったスリッパやカレー皿作りの説明があり、熱心に聞く参加者や小学生を指導する中学生の姿が見られました。

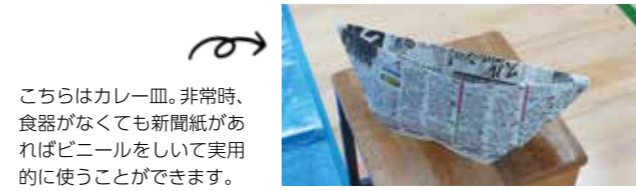
参加した中学生からは「幅広い年齢の人をまとめるのに大変だった」「災害の時は先頭に立って活動したい」との声が聞かれました。引率した松木内中学校の草薙宏之先生は「校内に限らず、地域に帰ってからの防災をより深く考える中学生でありたい」と話しました。



実際の避難を想定してパーティションを組み立てていく松木内中学校の生徒たち。



新聞紙で作ったスリッパ。避難時は重宝しそうです。



こちらはカレー皿。非常時、食器がなくても新聞紙があればビニールをしいて実用的に使うことができます。

この記事はインターンシップで来ていただいた角館高校2年の伊沢楓さんの取材をもとに作成しました。

### ゴール目指して快走!

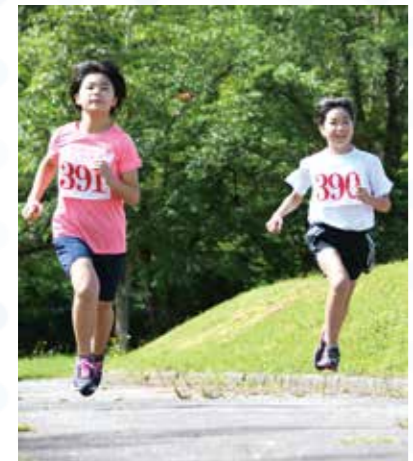
## 仙北市選抜チーム選手選考会を開催 (今年度は大会中止が決定)

10月に仙北市を会場に開催予定でありました「第7回秋田25市町村対抗伝ふるさとあきたラン! 仙北大会」に出場する仙北市選抜チームの小学生と中学生区間の選手選考会が8月1日、生保内公園野球場外周コースで開催されました。



最後まで白熱のレース展開となった中学生男子の部。

選考会は、小学生と中学生のそれぞれ男子の部・女子の部に分かれて行われ、外周コースを周回するタイムレースで実施



小学生女子の部で力走する児童たち。

されました。参加した児童・生徒は、気温が高いコンディションの中、自分のペースを刻みながらゴールを目指し快走しました。

選考会開催後、県内において新型コロナウイルス感染症が拡大してきたことから、今年度の仙北大会の開催は残念ながら中止となりました。選考会に参加された皆さん、これまで大会準備にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

7月18日、さきがけホール(秋田市)で開催された第48回秋田県高等学校将棋大会で男子個人戦に出場した佐々木翼さん(神代中卒・大曲工業高校1年)が初出場で優勝しました。

小学5年生の時に友だちが将棋を指しているのに興味を持ち、始めたという佐々木さん。最初はお父さんと指していましたが、大会に出始めるとその魅力にのめりこみ、めきめきと実力をつけていったそうです。中学校では、柔道部に所属する傍ら、将棋の先生の指導を仰ぎながら指し続け、腕を磨いたとのこと。大曲工業高校に入学後は、将棋同好会に所属し、日々練習に励んでいるそうです。

初出場となった今大会、男子個人戦には、全県から41人が出場。佐々木さんは予選リーグを順当に勝ち進み、決勝トーナメント3回戦で優勝候補を破るなど勢いに乗って迎えた決勝戦。序盤は劣勢でしたが、相手のミスもあり終盤に優位に立ち見事勝利しました。

## 第48回秋田県高等学校将棋大会 佐々木翼さん(神代中卒)が初優勝



初出場ながら落ち着いた対局で見事優勝を手にした佐々木さん。

「将棋の楽しさは、相手の考えを読み、自分の手を考えるところ」と佐々木さん。初出場となった大会を振り返って「緊張して苦戦しましたが、勝つていくうちに調子がよくなっていった。日頃の練習の成果を出すことができて、優勝の瞬間はとても嬉しかった」と話しました。また、今後の抱負を聞くと「次の大会に向けて、日々練習を続け、自分の弱点を克服して頑張りたい」と力強く話しました。

## 仙北市地域おこし協力隊



3年間の任期を終え、門脇市長から感謝状を受け取った播磨さん。

## 播磨靖之さんに感謝状

7月31日、仙北市地域おこし協力隊として小型無人機「ドローン」など近未来技術を活用した地域づくりに取り組んできた播磨靖之さんが3年間の任期を終え、門脇市長から感謝状が贈呈されました。

3年間で振り返って播磨さんは「まだ色々できたのではという思いはあるが、年数を重ねるたびに地域の方とのつながりができてドローンのみならず、様々な活動を行うことができた。中でも、昨年と今年の2月に角館駅前で行ったミニかまくら作りは、地元商店街の皆さんをはじめ、田沢湖・角館観光協会、角館駅前交番、JR角館駅などたくさんの方々の協力を得て実現できたので心に残っている。自分がどれだけ仙北市に貢献できたかわからないが、これからドローンがますます身近なものになって欲しい」と話しました。

## 総務省東北管区行政評価局長表彰 行政相談委員 大楽進さんが受賞

行政相談委員の大楽進さんが、総務省東北管区行政評価局長表彰を受賞されました。

行政相談委員は総務大臣から委嘱され、国などの行政について苦情や要望を受け付け、公正・中立な立場からその解決を図っています。

大楽進さんは、平成21年に委嘱されて以来、住民と行政のパイプ役として相談を受け付けています。

行政相談委員への相談は、秘密厳守・無料ですので、お気軽にご相談ください。



平野真哉局長(左)から表彰状を受け取った大楽委員(右)。

## 市のPRに「ウッド・アタッシュ」(クニマス)を寄贈いただきました

市内で木工業を営む森工房の代表・真崎森さんが、このほどクニマスをあしらった木製のアタッシュケース(品名/ウッド・アタッシュ)を市の業務やPRに役立てて欲しいと、寄贈くださいました。

真崎さんは、神代中学校卒業後に大曲職業訓練所に入所し木工の基礎を習得、その後木工所や工務店の木工部門などで腕を磨きました。現在の森工房は昭和63年に創業、以来32年にわたり桐のたんすや秋田杉を使用したつい立てなどを作り続けています。昭和44年には、ベルギーで開催された技能オリンピックに当時18歳で日本代表として出場、木工の建具部門で見事メダルを獲得した経歴の持ち主です。

今回寄贈いただいたウッド・アタッシュは、クニマスが表面にデザインされているのが特徴です。真崎さんは「クニマスが(富士河口湖町西湖で)発見されてからぜひアタッシュケースにクニマスのデザインを入れたいと思った」と話しました。



ウッド・アタッシュは大きいサイズ(上)と小さいサイズ(下)の2種類。どちらも木の温かみを感じます。

真崎さんが手がけるこのウッド・アタッシュは、秋田市中通にあるエリアなかいちに展示されているそうです。また、販売もしており、□こみで注文をいただいているとのこと。

真崎さんは「このウッド・アタッシュが色々な場面で仙北市のPRにつながってほしい」と、また、後継者がいない木工業の現状に「少しでも木にふれて木のよさを知りきっかけにもなってほしい」と話しました。



工房で作業をする真崎さん。一つひとつの精巧な作業から良質な製品が生まれます。



真崎さん(右)から門脇市長(左)に手渡されました。



門脇市長(右)から綾子さん(左)に手渡されました。

**おめでとう**  
**いじやます**

8月4日、戸堀綾子さん(角館町下延)が100歳の誕生日を迎えられ、自宅でお祝いが行われました。

当日は、家族の皆さんが集まり、仙北市からお祝いと花束が贈呈されました。

**訂正とお詫び** 広報8月16日号4ページに掲載の「里山地域貢献パートナー協定 都市交流事業がスタート!」の記事の一部に誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。

後ろから3行目 **誤** 赤蕎麦の花の見頃 (4月下旬頃から) → **正** 赤蕎麦の花の見頃 (9月～10月)